

神奈川県厚木市におけるスウィンホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* の生息状況

梶 真史・岩下 歩叶・川崎 守・鉄谷 龍之・加藤 英明

Masashi Enju, Ayuto Iwashita, Mamoru Kawasaki,
Tatsuyuki Tetsuya and Hideaki Kato

The inhabiting situation of the Swinhoe's Tree Lizard, *Japalura swinhonis* Günther (Squamata, Agamidae) in Atsugi City, Kanagawa

はじめに

スウィンホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* Günther, 1864 は、有鱗目 Squamata アガマ科 Agamidae に属する台湾固有の種で、台湾島と近隣の島々に分布する（向, 2001）。本種は、2006年に静岡県磐田市において初めて野外で目撃されて以降、同地域で複数個体が捕獲されたことから、野外における定着が確認された（加藤ほか, 2010; 加藤ほか, 2013）。2014年には岐阜県羽島市で本種のおス1個体が捕獲されており、静岡県と同様、台湾から植物を輸入する際に紛れて侵入したと推測された（向井・田上, 2017）。また、原因は不明であるが、宮崎県日向市でも、2016年に3個体が捕獲された（夕刊デイリー「外来トカゲ、3匹目一日向市細島」2016年9月24日掲載）。なお、本種は、2016年8月に特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律により特定外来生物に指定され、輸入や販売、飼育が規制されている。

神奈川県厚木市では、2011年に本種に似たトカゲを目撃し、2016年夏にキノボリトカゲ属と推測される個

体が野外で捕獲された（図1）。外部形態は、頭部腹面に楕円形の斑紋が並ぶこと、上唇板上部にキールの強い鱗が並ぶこと、喉の中央が橙色や黄色に色づかないことなど、静岡県で捕獲された個体および Ota (1991) が示す特徴と一致したため、スウィンホーキノボリトカゲと同定された（厚木市, 2016）。2017年以降、冬季を除き、登下校時などにおける探査により、複数の個体が野外に存在することが明らかになった。野外での本種の確認は関東以北では初であり、生息状況の調査と防除が必要である。

本調査では、厚木市におけるスウィンホーキノボリトカゲの生息の現状を明らかにすることを目的とした。

調査および材料

本調査は、2016年にスウィンホーキノボリトカゲが初めて捕獲された小規模な雑木林（地点A）を含む厚木市恩名全域を調査範囲とした。調査期間は、2017年5月から2018年7月までで、探査は、2人で登下校時および放課後に適宜行い、また、集中探査を4人で2日間

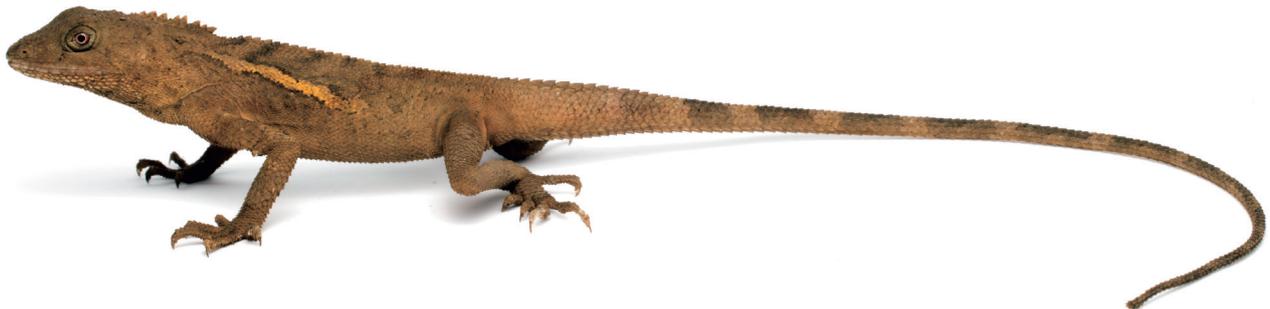


図1. 初めて捕獲された個体（個体番号 a）.

行った。探査は目視により、素手や手網を使用して捕獲した。

調査地は尼寺原台地の一角であり、工場地や住宅地、小規模な雑木林が混在している（図2）。本種の取り扱い、静岡大学において研究を目的とした飼養許可（環関地野許第1612018）を環境省から得たうえで行った。捕獲個体の一部は、種の同定と繁殖の有無、消化管内容物の調査のため飼養施設に移動した。腹部が膨らんだ雌個体は、有精卵保持の有無を確認するため、飼養施設内で単独で管理した。

本研究における外部形態の計測法はOta（1991）に従い、標本は70%エチルアルコールで保存し、あつぎ郷土博物館、および静岡大学の資料として保管した。

結果と考察

厚木市恩名において、合計48個体が捕獲・目撃され、その範囲は捕獲・目撃地点の最外郭13.9haであった。成体および亜成体は、雄14個体、雌12個体、性が特定されなかった幼体は21個体、目撃は1個体（性は特定されず）であった（表1、図2～4）。また、なお、野外における卵と卵殻は未発見である。

捕獲・目撃した環境は、工業地や住宅の植栽や垣根、および雑木林である。本種の行動は素早く、雑木林では捕獲するのが困難であり、2個体（うち1個体を捕獲：地点D、F）を得たのみである。その他は、工場敷地内の小規模な植栽（地点B）、民家垣根（地点C）、または工場事務所内（地点E）であった。本種の捕獲は、開け

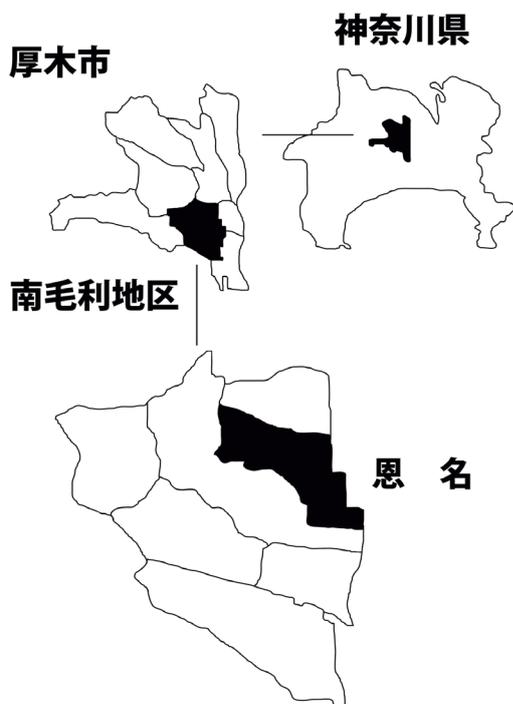


図2. 調査地概況位置図.

た場所に追い込み、素手やタモ網による方法が有効であるため、捕獲可能な地点は小規模植栽地や民家垣根など限定的であった。

2017年6月12日に捕獲された個体番号4の雌は、7月1日に卵を6個、7月5日に捕獲され個体番号9の雌は、7月20日に卵を7個、パーミキュライトを敷いた容器内で産卵した。個体番号9の卵は孵化しなかったが、個体番号4の卵は8月15日に孵化したことから、有精卵であることが確認された（図5）。

2017年8月23日に捕獲された個体番号15と16の2個体については、消化管の内容物を分析した結果、ハサミムシ目Dermapteraの一種、カメムシ目Hemipteraのカスミカメムシ科の一種Miridae sp., ホオズキカメムシ *Acanthocoris sordidus*, マルカメムシ *Megacopta punctatissima*, コ

表1. 捕獲個体の情報（単位：mm）

個体番号	捕獲日	捕獲地点	頭胴長	全長	ステージ	性別	標本番号など
a	2016.8.15	A	69.0	235.0	亜成体-成体	オス	
b	2016.8.15	A	62.0	198.0	亜成体-成体	メス	
c	2016.10.23	B	68.0	208.0	亜成体-成体	メス	
1	2017.5.2	B	82.8	263.5	亜成体-成体	オス	
2	2017.6.12	B	71.6	239.9	亜成体-成体	オス	
3	2017.6.12	B	68.6	238.6	亜成体-成体	オス	
4	2017.6.12	B	72.3	225.2	亜成体-成体	メス	
5	2017.6.12	B	60.6	202.4	亜成体-成体	メス	
6	2017.6.19	B	81.1	262.8	亜成体-成体	オス	
7	2017.6.19	B	77.3	260.7	亜成体-成体	オス	
8	2017.6.19	B	69.6	214.8	亜成体-成体	メス	
9	2017.6.19	B	69.7	212.1	亜成体-成体	メス	
10	2017.6.19	B	84.0	255.0	亜成体-成体	オス	ACM-AM-218
11	2017.6.19	B	72.0	207.0	亜成体-成体	メス	ACM-AM-219
12	2017.6.19	F	不明	不明	亜成体-成体	不明	目撃個体
13	2017.7.4	B	69.1	203.2	亜成体-成体	メス	
14	2017.7.4	B	46.7	150.7	亜成体-成体	オス	
15	2017.7.4	B	64.6	94.2	亜成体-成体	メス	
16	2017.8.23	B	80.6	251.3	亜成体-成体	オス	
17	2017.8.23	B	69.2	236.5	亜成体-成体	オス	
18	2017.8.23	B	26.2	71.9	幼体	不明	
19	2017.8.23	B	26.7	71.4	幼体	不明	
20	2017.8.23	B	26.6	70.9	幼体	不明	
21	2017.8.23	B	26.2	70.4	幼体	不明	
22	2017.8.23	B	26.6	69.8	幼体	不明	
23	2017.8.23	B	24.4	67.8	幼体	不明	
24	2017.8.23	B	25.3	67.1	幼体	不明	
25	2017.8.23	B	24.3	66.5	幼体	不明	
26	2017.8.23	B	23.4	63.8	幼体	不明	
27	2017.8.23	B	24.8	63.4	幼体	不明	
28	2017.8.23	B	22.5	63.3	幼体	不明	
29	2017.8.23	B	23.9	63.1	幼体	不明	
30	2017.8.23	B	24.6	61.7	幼体	不明	
31	2017.8.23	B	23.7	60.4	幼体	不明	
32	2017.8.23	B	22.8	59.8	幼体	不明	
33	2017.9.7	B	28.6	79.4	幼体	不明	
34	2017.9.7	B	28.8	78.3	幼体	不明	
35	2017.9.7	B	26.7	69.3	幼体	不明	
36	2017.9.12	B	26.3	69.3	幼体	不明	
37	2017.9.12	B	23.9	65.4	幼体	不明	
38	2017.9.12	B	25.8	64.6	幼体	不明	
39	2018.4.15	B	80.0	269.0	亜成体-成体	オス	ACM-AM-220
40	2018.4.22	E	70.0	237.0	亜成体-成体	オス	ACM-AM-221
41	2018.7.9	C	81.0	256.0	亜成体-成体	メス	ACM-AM-222
42	2018.7.9	C	79.0	259.0	亜成体-成体	オス	ACM-AM-223
43	2018.7.9	C	69.0	238.0	亜成体-成体	メス	ACM-AM-224
44	2018.7.9	C	74.0	215.0	亜成体-成体	オス	ACM-AM-225
45	2018.7.9	C	49.0	165.0	亜成体-成体	メス	ACM-AM-226
46	2018.7.9	C	50.0	172.0	亜成体-成体	オス	ACM-AM-227
47	2018.7.20	D	71.0	238.0	亜成体-成体	メス	ACM-AM-228
48	2018.7.20	C	46.0	153.0	亜成体-成体	メス	ACM-AM-229

個体番号a-cは調査期間外に捕獲されたが、参考のため記載した。捕獲地点数が分かるよう、捕獲地点をアルファベットで分けた。

ウチュウ目 Coleoptera のヒメアカホシテントウ *Chilocorus kuwanae*, ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata*, また, ハチ目 Hymenoptera アリ科 Formicidae の一種が得られた。その他, 種の特定ができなかったコウチュウ目の1種一種と幼虫が得られた。これらの種は, ハサミムシ目の一種, ハチ目アリ科を除き, 活発に飛翔するものであることから, 植栽や垣



図3. 成体および幼体 (2017.8.23 捕獲).

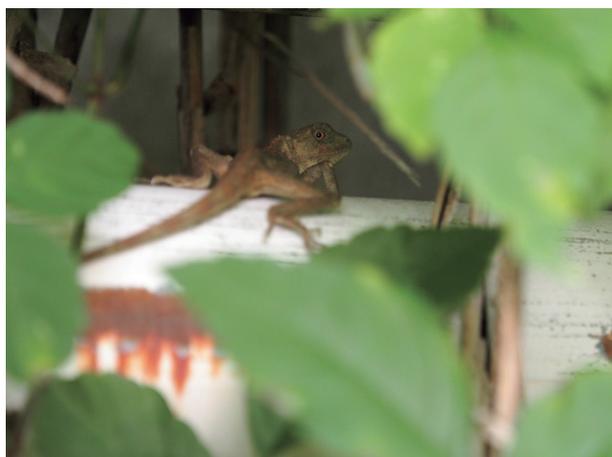


図4. 配管上で休止する個体 (2016.10.23 撮影).



図5. 卵と孵化した幼体 (2017.8.15 孵化).

根に飛来した昆虫を中心に, 種にこだわらず動くものを本種は捕食するものと考えられる。

神奈川県厚木市において, ごく狭い範囲で様々な大きさの個体が複数年次に捕獲されていること, 飼育下で有精卵を得たことから, 本種が当地において定着していることは明らかであり, 国内での定着は静岡県に続く2例目である。また, この地域周辺には, 台湾から輸入された植物を扱う倉庫等は確認されておらず, 継続して外部から個体が供給されている可能性は低く, ある時点で定着が可能だけの個体数が導入されたと考えられる。

また, 捕獲が容易な地点 B, C において, 継続的に捕獲をした結果, 地点 B での発見頻度は低下した。なお, 地点 B 地点から, 約 1 km 離れた住宅地において, 2018 年 7 月に本種に似た亜成体から成体のトカゲを 1 個体目撃しており, 厚木市南部に広く分布している可能性がある。

本事例においては, 胃内容物の分析や確認された定着地域が市街地に遺存的に残る雑木林の一角を含んでいることから, 市街地に残された貴重な自然において本種の在来種等に与える捕食圧が懸念されるため, 早急な防除が必要である。

引用文献

- 厚木市, online. 2016. 厚木市環境政策課. 特定外来生物「スウィンホーキノボリトカゲ」の確認について. <https://www.city.atsugi.kanagawa.jp/information/d036557.html> (accessed on 2018-July-31).
- 加藤英明・細田昭博・大庭俊司・衛藤英男, 2010. 静岡県で記録されたスウィンホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* Günther (Squamata, Agamidae). 日本生物地理学会会報, 65: 9-12.
- 加藤英明・大庭峻輔・大庭俊司・衛藤英男・多比良嘉晃, 2013. 静岡県磐田市におけるスウィンホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* Günther (Squamata, Agamidae) の繁殖と食性. 東海自然誌, 6: 35-38.
- 向井貴彦・田上正隆, 2017. 岐阜県羽島市で捕獲されたスウィンホーキノボリトカゲ. 日本生物地理学会会報, 71: 249-251.
- Ota, H. 1991. Taxonomic redefinition of *Japalura swinhonis* Günther (Agamidae: Squamata), with a description of a new subspecies of *J. polygonata* from Taiwan. *Herpetologica*, 47 (3): 280-294.
- 向高世, 2001. 台湾蜥蜴自然誌. 173 pp. 大樹文化事業(股)公司, 台北.

槐 真史: あつぎ郷土博物館

岩下 歩叶: 立花学園高等学校

川崎 守: 神奈川県立小田原城北工業高等学校

鉄谷 龍之: あつぎ郷土博物館

加藤 英明: 静岡大学教育学部